

大鰐町地域公共交通会議

平成21年3月23日設置



概要

大鰐町の公共交通機関は、JR・弘南鉄道大鰐線・路線バスが配置されている。JRは、弘前市への通勤、通学のほか、東部からの生活交通に、弘南鉄道大鰐線は弘前市への通勤、通学のほか、北部からの生活交通に利用されている。路線バスは、国道7号を運行する補助路線（北部、南部）と、町中心部を通り放射状にある行政区とを結んでいる3つの路線が運行している。大鰐町は近年の人口減少が著しく、人口の65歳以上の高齢者に占める割合は平成21年2月末で約32%に達し、県内でも超高齢化及び過疎化が加速度的に進行している。このような状況の中で、自動車運転免許を持たない高齢者や通学者、高齢化により運転が困難となり得る世代の増加などにより、地域住民が日常生活に欠かせないサービス（医療・福祉・教育等）に必要な公共交通に対する役割について、地域全体のマネジメントを考慮したモビリティの確保が重要な課題となっている。

○地域公共交通の現況

- ・JR奥羽本線：弘前市への通勤・通学、町の東部からの生活交通
- ・弘南鉄道大鰐線：弘前市への通勤・通学、町北部からの生活交通
- ・路線バス：国道7号を運行する補助路線（北部、南部）と町中心部を通り、放射状に存する行政区とを結んでいる3つの路線の存在

○地域公共交通の課題

- ・地形的な要因から循環型のバス路線となっておらず、運行上非効率
- ・町が運行する患者輸送バスが同バス路線と重複
- ・路線バスに補助金を交付し、生活交通の確保に努めているが、厳しい財政事情の中での捻出に苦慮
- ・バス路線の廃止や減便は、交通弱者である利用者に対して不便を生じさせている

○調査の主な内容

- ・住民を対象としたグループヒアリングまたはワークショップ
- ・バス利用の実態調査
- ・通勤および通学の流動調査
- ・先行事例の報告会の実施

○地域公共交通総合連携計画の構想（予定）

- ・現行の路線バスのサービス水準についての検討
- ・デマンド型交通の導入検討
- ・公共交通の担い手として、多様な民間事業者によるサービス提供についての可能性の検討

